

平成30年度 維持管理状況(12月1日～31日)

<工場設置計器の測定結果>

清掃工場名等	焼却能力	炉番号	処分した一般廃棄物	ごみ焼却量	燃焼室ガス温度	集じん器入口ガス温度	排ガス中の一酸化炭素濃度(煙突) (O <sub>2</sub> 12%換算)	冷却設備及び排ガス処理設備に堆積したばいじんの除去
	t/日			t	℃	℃	ppm	
有明	400	1号炉	可 燃 ご み	5,776.47	998～1,144	175～180	0～53	ボイラ設備の除じんはボイラスタートブロワ又はボイラ槌打装置により毎日実施する。ろ過式集じん器の除じんは空気式自動洗浄装置により毎日実施する。
		2号炉		2,987.41	990～1,186	169～176	0～32	
千歳	600	1号炉		4,367.53	970～1,121	162～179	0～9	
江戸川	600	1号炉		7,236.36	883～990	170～171	0～42	
		2号炉		832.78	864～939	170～171	0～34	
墨田	600	1号炉		14,079.51	1,047～1,195	159～160	0	
北	600	1号炉		14,826.26	1,012～1,190	151～158	1～30	
新江東	1,800	1号炉		15,528.13	887～1,157	167～171	0～10	
		2号炉		16,051.65	933～1,145	167～171	0～13	
		3号炉		16,399.69	911～1,148	165～170	0～24	
港	900	1号炉		6,893.74	996～1,279	166～170	0～34	
		2号炉		8,911.42	940～1,260	167～170	0～35	
		3号炉		8,730.05	953～1,318	165～169	0～31	
豊島	400	1号炉		5,196.52	847～907	167～173	1～76	
		2号炉		4,113.15	859～911	169～171	1～32	
渋谷	200	1号炉		5,101.39	897～1,017	145～160	0～69 * ①②	
中央	600	1号炉		4,999.70	973～1,094	148～152	0～17	
		2号炉		6,420.89	977～1,080	149～152	0～24	
板橋	600	1号炉		7,682.29	1,007～1,231	157～166	0～1	
		2号炉		8,202.14	989～1,231	154～159	0～2	
多摩川	300	1号炉	3,949.99	909～1,050	154～156	0～3		
		2号炉	3,376.36	894～1,017	154～157	0		
足立	700	1号炉	3,068.60	896～1,037	172～173	0～14		
		2号炉	8,176.87	881～1,097	171～173	0～48		
品川	600	1号炉	8,255.49	895～1,100	160～174	0～28		
		2号炉	8,249.51	917～1,085	160～170	0～28		
葛飾	500	1号炉	6,728.25	981～1,156	156～163	0～19		
		2号炉	3,002.32	991～1,095	159～161	2～20		
世田谷	300	1号炉	3,266.58	874～1,029	167～180	0～53		
		2号炉	3,769.29	908～1,049	167～183	0～53		
大田	600	1号炉	8,901.20	908～1,001	151～168	3～32		
		2号炉	8,936.10	910～1,002	150～165	4～42		
練馬	500	1号炉	7,317.07	863～984	155～166	0～39		
		2号炉	2,374.44	901～1,019	155～164	1～66		
杉並	600	1号炉	8,888.66	873～1,025	154～162	0～68		
		2号炉	9,000.62	899～992	152～159	0～23		

注:大田清掃工場 第一工場、中防灰溶融施設、破砕ごみ処理施設は休止しています。

測定値が維持管理計画値を超過した(下回った)理由(\*)

- ① 渋谷清掃工場 1号炉12月2日(日) 16:00  
排ガス中の一酸化炭素濃度が、煙突入口連続測定器で69ppmを記録した。  
ごみ質変動により燃焼が不安定となり、一酸化炭素濃度が上昇した。  
燃焼空気量の手動介入により、燃焼状態が回復した。
  
- ② 渋谷清掃工場 1号炉12月4日(火) 14:00  
排ガス中の一酸化炭素濃度が、煙突入口連続測定器で61ppmを記録した。  
ごみ質変動により燃焼が不安定となり、一酸化炭素濃度が上昇した。  
酸素濃度制御等の手動介入により、燃焼状態が回復した。

平成30年度 維持管理状況(12月1日～31日)＜工場設置計器の測定結果＞より